

# よこはま市商連

No.182  
2018年(平成30年)

5月号

発行 一般社団法人横浜市商店街総連合会  
発行人 石川清貴  
〒231-0048 横浜市中区蓬莱町2-4-1 横浜大通り公園ビル5階  
TEL045-250-6613 FAX045-262-2077  
制作 場所づくり研究所(有)ブレイス  
<http://www.yokohama-syoutengai.com/>

横浜F・マリノス  
和田昌士 選手  
西区商店街組合連合会  
西区・戸部大通り商店会  
大塚眞司 会長



©Y.F.MARINOS

## 新しい商店街組織 商店街組織の 大切さを 見つめ直す から見てくること

「会員数が減る一方で…」 「役員のなり手が見つからない。」など、さまざまな理由で組織運営が困難になり、解散や脱退してしまう商店街もあるなか、地域商業のまとめ役として、コミュニティの担い手として、「やはり商店街がなくては!」と新しい商店街が組織化されています。今号では、近年横浜市内でそれぞれの思いから新しく組織をスタートし、精力的に商店街活動を展開している3つの商店街を紹介します。我々にとって当たり前にある商店街という存在がいかに大切であるか、あらためて考えてみましょう。



(写真左より)伊東義之町内会長  
大島俊正事務長

**商店街の仕組みづくり**  
両会長を中心とした役員陣は、商店街に馴染みの少ないテナント店主たちに「古くからいる一部の人だけが何かを

**町内会と本格タッグを組んだ組織**  
第一部は「町内会(伊東義之会長)」、第二部は「商栄会(本井哲夫会長)」、第三部は「地蔵尊(久保照夫総代)」と三つの部会で組織を構成しました。ひとつの運営母体となることで、部会ごとの独立会計を取りながらも、商栄会会費に町内会費を含んで徴収するなど、可能な業務は共有にし、合理的に三位一体となつたまちづくりを可能にしています。

**単会独自の運営で生き残りをかける**  
市内有数の繁華街である伊勢佐木町は1丁目から7丁目まで約1.4キロ続く長い通りです。3・4・5・6・7丁目の各商店街が(協)伊勢佐木町商店街に所属していますが、そのひとつ伊勢佐木町7丁目商栄会(旧名)が商店街の未長い存続を見据え、7丁目の実体に見合った独自の運営に踏み切ることを見断。平成27年4月、昔から二体となつて7丁目のまちづくりを進めてきた町内会といつしよに非営利型(二社)伊勢佐木町7丁目町内会第二部商栄会として独立しました。

### Case 1 連合会からの独立 中区 非営利型二般社団法人伊勢佐木町7丁目町内会第二部商栄会

している。「会費の使われ方がわからない。」「そんな印象を与え続けていけば商店街活動への理解は到底得られない、商店街に加入してもらうためには時代にあった仕組みづくりが急務だと考え、①補助金申請などの煩雑な事務仕事を会員がこなすのではなく、簿記3級以上、インターネットやパソコンの一般的操作ができる事を条件に、即戦力となる事務長を募集。②組織の役割分担、規約や選挙方法の制定、明朗な会計管理、情報の公開と共有を徹底しよう」と、毎月役員会議事録や情報連絡、年一回各部会会計報告などを全戸配布。③間口割りによる会費も、納得していたために全戸を再計測した上、会計を見直し、会費を大幅に減額。④会費集金の負担を減らすため、銀行自動引き落としに統一。⑤「きれいで明るいまち」であるためにはハード整備も必要と、子育て地蔵尊、町内会館の改修工事ははじめ、街路灯のLED化、掲示板の取替え、なども実施しました。

**楽しいまちづくりへ「再スタート!」**  
「みなで独立を成功させよう」という役員陣の誠意と熱意のある働きかけがまち中に伝わり、70%だった商店街加入率がほぼ100%に。町内会加入率も



伊勢佐木7丁目さくらまつり



上がりました。会合や商店街事業へも積極的に参加し、企画段階から関わる会員も増えました。若い飲食店同士のつながりも生まれ、「イセザキゼブン推進委員会」として個店やまちの情報やSNS発信、合同でお節料理セットを販売するなど飲食イベントにも取り組んでいます。今年で3回目となった「伊勢佐木7丁目さくらまつり」では、飲食店による自慢の料理を販売し、会員の口コミで集めたバンドによる野外コンサートも大盛況でした。



伊勢佐木町丁目のシンボル「子育て地蔵尊」

「独自運営を機に、まちへの気持ちそれぞれ再認識され、『自分たちで盛り上げよう』という機運が生まれました。アットホームで明るく、安心安全な7丁目らしいまちづくりを進め、まちの価値をあげていきたいと思います。あとはその舞台で各個店に精一杯販売を頑張っしてほしいですね。」と独自運営を牽引した伊東会長、本井会長と大川事務局長。

## Case 2 解散からの復活

金沢区・南川商店会

やむなく解散という選択



(写真左より) 音石達雄副会長 大橋克美監査役

京浜急行六浦駅西口に広がる市内最南端の商店街、南川商店会。昭和24年の同駅開業と同時期に結成されました。古くからの商店街役員は高齢化、新しい人材は見つからず、会合出席は古参役員のみ、

会費徴収の手間も負担も高く、ようやく集めた会費も貯まるままで活用するすべもありませんでした。このような状態では次世代に引き継げない、自分たちの代で解散しておこう、と47店舗もの会員を有しながらも昨年3月、解散を決定しました。

### 有償ボランティア団体との出会い

解散を決め、商店街所有の街路灯を町内会に寄付しようと考えましたが、その交渉、手続きも煩雑で進まず、商店街資産を分配しようにもその規約も曖昧、登記上の解散手続きは済ませたものの、課題を抱えたまま。そんな折、金沢区内で活動する福祉分野の有償ボランティア団体「(一社)金沢まごころの会」より事務局機能なら請け負うから商店街をなくさないでほしい、と打診されました。「解散を決めておいて勝手な言い分だけだ(笑)、歴史ある商店街、他人に入ってもらって大丈夫かな、と不安もありましたよ。でも、力を借りることで解散を回避できるなら、商店街が存続できるなら乗ってみよう、と考えました。」と同商店街の音石副会長と大橋監査役。程なく商店街再結成の手続きを進めました。

### 解散があったからこそ

事務局機能ができたこと、解散という苦い節目を味わったことで、何かをしようという空気が生まれました。申請や報告に手間のかかる補助金も事務局があるなら上手に利用していこうと考え、まずは商店街のシンボルとしてロゴマークを公募、その発表をかねたイベント「お月見祭り」も10月に初開催しました。事前審査で5つに選出されたロゴマークの中から、当日来てくれたお客さんに直接投票していただき、特設ステージでは、鼓笛隊や和太鼓の地域団体が音楽で盛り上げ、食



南川商店会お月見祭り

の秋らしくお月見団子や秋刀魚も振る舞いました。当日は大賑わい、「地域の方はこういう場を待っていたんだな」としみじみ感じましたね。」と音石副会長。その後も、年末の商店会を利用してくれた方への「福引き大会」、この4月には「さくらまつり」を開催、日曜日にもかかわらずお店を開けてくれた店主、「少しの協力だけ。」と手作りのお菓子を用意して配布してくれた店主もいました。先頭切って企画や運営に関われる時間と手間がなかっただけ、出来ることは協力したい、そんな会員たちの気持ちにひしひしと伝わってきたそうです。「どうしたの最近? 商店街楽しいじゃない!」、地域から聞こえるそんな声も活動への励みになっています。

### 楽しみな2年目

ロゴマークをどう活用していこうか、年末は寒かったからビンゴ大会をやめて甘酒の配布にしようか、イベントに人数が増えたと町内会にも協力いたただかなくては、など発展的な意見も生まれてきました。また、4月に「南川商店会新聞」第1号を発行し、商店街マップ、イベント情報、会員店舗の情報を掲載、会員同士お互いを知ってもらうことからあらためて始めています。負担を感じていた会費の集金もコミュニケーションづくりの大事な環と捉え続行を決めました。「ガチチャーハン!」では、商店街で初めてガチーシリーズに挑戦する店舗が誕生、商店街あげてどう応援しようか、商店街が今、盛り上がりを見せています。

「この地域の店は快く加入もしてくれず、会費もきちんと払ってくれていない。ただ、自分は動けないのにアイデアや意見だけ出すと皆が困るから、言い出しつべにならないように商店街から距離を置く、以



商店街の通りには桜並木が続く

前はそんな雰囲気が強かったですね。今は事務局にお願いできる部分もあるから、若い人にもどんなアイデアを出してもらい、商店街活動に関わってほしいです。」と音石副会長。

### Case 3 新規立ち上げ 青葉区・江田駅周辺商店会



#### 商店街組織がないことに疑問

個店や数多くの企業が広く点在する田園都市線江田駅周辺で、20年前より会社を経営している齋藤篤彦会長、昔ながらの商店街らしい街並みではないものの、商業者がたくさんいる地域でありながら商店街組織がないことに、かねてより疑問を持っていました。5年前、自身の仕事上知り合った区内のいろいろな商店街関係者から地域のために活動している商店街の活動を聞き、商店街組織の必要性を改めて認識。同区20周年を迎えた2013年、「この周年の機会に商店会を組織しよう!」と半年かけて一軒一軒を訪問、賛同を得た5会員で商店会を発足しました。

#### 商店会のテーマは「友達になろうよ!!」

「店舗が集積していないので、互いを知らぬまま商業活動を行ってきた人たちが、商業者同士がつながりを持つことは商売の上でも必ずプラスになりますから、その理解を商人に発信して会員を増や



齋藤篤彦会長

し、同時に商店会が核となつて地域の点と点をつなげてコミュニケーションを構築しています。」と齋藤会長。発足以来、「友達になろうよ!!」を商店会のテーマに掲げ、会員飲食店を会場に、



エダトモフラワーロード活動

ど、住民参加型のイベントも積極的に開催しています。そして事業名称の冠には必ず「エダトモ」、地域への愛着を育てています。

#### 住民とタッグを組んだ商店街活動を展開

離れて立地する個店、企業、学校、病院などが会員の同商店会において、会員だけの足並みを揃えた商店街活動は難しいと判断、発足翌年には「エダトモサポーター」という名称でボランティアの商店会応援団を募集しました。個人の住民だけではなく、エリアを超えて町会のメンバーも「エダトモサポーター」として力を貸してくれています。車の往来が多い区道と国道が交差する同商店街エリア、少しでも明るく安心安全な環境にしていきたい、と商店会が行政とさまざまな交渉を重ね、江田駅前や道路脇などにレンガブロック花壇を順々に設置、「エダトモサポーター」は花壇の花植え、水やりなどで管理をする、という連携が定着しています。また、「エダトモサポーター」に商店会公式キャラクター「えだまる君」が掲載された名刺も差し上げ、さまざまな事業で商店会の仲間として活躍してもらっています。この商店会と住民、住民同士をつなげるまちづくり活動が評価され、昨年は「かながわ商店街大賞特別賞」を受賞しました。

#### 商店会が発足してできたまちづくり

「商店会が出来ていなければ、今ある花壇の場所は草だらけのままだったでしょう。」と齋藤会長。自店のあるまちを思い、何かを実行したくても組織という信頼がなければ行動できることは限られます。店舗や企業同士がつながり、さらに行政や商連ともつながることにより人脈や情報が増え、限らないまちづくりには膨らむそうです。5店で始まった会員は30にも増えました。商店会はHPによるタイムリーな情報公開、会員同士はラインでやりとりするなど、SNSを活用しつつも顔を合わせる懇親会をあえてたくさん企画、「コミュニケーションを深めています。新しいけれど温かい、しがらみはないけれど無関心ではない、心地よい距離感の組織づくりを目指しています。」

「一お店に行かなくても買える物ができる時代にどうやって商店街が生き残れるか。商店街ひとつひとつがデパートのように、お出掛けしたくなるような魅力を打ち立てて行かなくてはいいかないと思います。うちも青葉区全体の盛り上げに貢献したいですね。」と齋藤会長。



江田駅前の手入れの行き届いた花壇

「独立、再結成、新規立ち上げ」と「から組織を構築し、それぞれわずかな年月ながらも商店街を軌道に乗せ、横浜に新たな魅力を生んでくれています。個店にとって厳しい時代だからこそ、商店街の組織力を強化しなければなりません。「人材」「ネットワーク」「歴史」という商店街の強みがあります、あとは「どうにしかしなればいけない!」と皆が本気で考え、動き、商店街を維持し、発展させましょう。」

## 危機感がアイデアを生む

オーナーの高橋英昭さんは、人を喜ばすこと、そして自分も楽しむことが大好きだから、と大手玩具専門店に就職、その外食事業部でのバイヤーや店長を経験し、26年前、先代の娘婿として2代目を引き継ぎました。景気後退やコーヒーチーン店の台頭など、厳しい商業環境での商売を余儀なくされる中、「忙しくて丁寧な手作りをする」「お客さまの求めているものをいち早く察知して提供する」ことを実践しています。「創業年数が長いと、それなりに常連さんが来てくれるから商売になる、と思いがちです。でも、常連さんも歳はとりましますし、例えば、引越などで来店できない事情は起こりえます。時代が変わる中、目の前のお客さんに当たり前の商売を続けているだけでは生き残れません。常に危機感を持ち、次の一手を打ち続けてきました。」と高橋さん。

## 楽しいサービスを次々企画

看板メニューのナポリタンでは「食べ放題」という斬新なサービスを打ち出しました。「創業当時からの正統なレシピ」というポリシーは譲らず、おかわりも注文を受けてから調理します。その本格的な「味」「食べ放題」が話題を集め、マスコミにも取り上げられるようになりました。現在は6種類のスパゲッティを日替わりで、さらに毎週金曜日には全種類「食べ放題」で提供しています。サンドウィッチなどの喫茶店らしい定番メニューはもちろん、焼き魚や生姜焼きなどの種類豊富な日替わり定食など、常時40種類以上のフードメニューを展開しています。また、「今月のおまけ」と銘打って、100円均一で温泉卵や蜜豆などを追加できるサービスも。「毎日来てても飽きないようにメニューを充実さ



地域で愛され  
続けるには  
理由がある!

# 横浜の商店街 “いい店”探究



個人経営の喫茶店が商店街から姿を消してしまうことも少なくない中、同店は創業43年の老舗喫茶店ならではの温かな雰囲気そのままに、地域の「食の場」「交流の場」として新たな賑わいを生んでいます。オリジナリティあふれる店づくりへ挑戦を続ける経営努力で、喫茶店の可能性を無限に広げています。

1・2 高橋さんご夫婦の楽しいお人柄がお客さんを包んでいる「うたごえ喫茶」 3 昭和レトロな店構えも魅力的な「喫茶タンゴ」。商店街に調和しています  
4 ナポリタンをしのぐ2番人気の「スパゲッティイタリアン」 5 美声が自慢の高橋さん。名物マスターです

鶴見区  
つくの商店街  
協同組合  
喫茶タンゴ  
佃野町29-45 ☎571-3414

せました。年配のお客さんも多いので魚料理も増やしています。多様なフードメニューを提供するためには仕入れは複雑、人手も入ります。当然原価は上がりますが、お客さんの『美味しい!』の声を励みに、書き入れ時であるランチに勝負をかけています。」と高橋さん。気がつけば「食べ放題」を目当てに遠方から来店した一見さんの口コミやSNS発信が、さらなるお客さんを呼んでくれるようになりました。

## あらたな事業展開「うたごえ喫茶」

大手企業の移転や不景気の影響で減ってしまった宴会需要を埋めるべく、「うたごえ喫茶」を6年前に始めました。高橋さんは、ご夫婦で混声合唱団に所属する歌声の持ち主。ピアノは近くの教会から譲り受け、アンプやステレオは徐々に買い揃えていきました。はじめは不定期で開催していましたが、想定以上の反響があり、口コミでお客さんがどんどん増え、現在では月2回の定期開催となりました。第2水曜日を昼の部、第4金曜日を夜の部として、ゲスト歌手のライブステージもあります。参加費は2,200円(ワンドリンク付)で、昼の部は軽食、夜の部はナポリタンの食べ放題をつけ、店の味も知ってもらっています。さらに、1回参加ごとにスタンプを押し、10個たまると1回参加無料になります。毎回満員御礼で、同店の一大事業へと成長させました。

「商店街も個店も常に頑張る、知恵をしぼって新しいことにも挑戦する、それを続ける努力、ときには見直す勇氣も大事です。そしてお客さんといっしょに自分も楽しんでやう(笑)、それが僕の信条です。」と高橋さんが笑って語ってくれました。

## 販売促進委員会一筋

2代目であるご両親と日々店頭に立つ大貫さん。自店は下町らしい老舗洋品店、昨年夏に3代目に就任しました。ときを同じくして商店街の販売促進委員長に。20代から青年部、販売促進委員として8年、さらに同副委員長で6年経験を積みました。「毎日が祭りのような活気あふれる商店街づくり」を目標にしている同商店街では数多くのイベントを開催、それを企画運営しているのが販売促進委員会です。飲食店やスーパードなど、さまざまな業種の40代〜70代までの役員で構成されています。大貫さんは「経験豊富な先輩方が温かく応援してくれるので、若手がアイデアを出せる雰囲気は伝統になっています。僕自身、若い頃から挑戦をさせてもらい、その成功体験や達成感が今日の原点です。『やってみよう！』を吸い上げて多くの組合員に満足してもらえるようなイベントを心がけています。でも、本業が傾いてしまったら本末転倒です。『本業あつての商店街活動！』を基本に役員の方々と共に活動しています。」ときつぱり。

## 新委員長として挑戦

慣れた販売促進の活動とはいえ、委員長としてのプレッシャーは全然違うものだそう。「組合員皆さんの大事なお金だから無駄遣いはできません。」。続けるべきことはしっかり続ける、そして、見直してみることも着手しています。集客力が減った「中元福引」をやめ、20年前の名物イベント「でっかいバーゲン」を復活、また、いつか大岡川に「と長年かけて商店街で募集しているたくさんの鯉のぼりを今年上げることを実現」「さくらまつり」後の春イベントに位置付けたいと考えています。「ファミリ層が車で大

# 商店街自慢の次世代リーダー発見!



商店街の将来を見据えて育てよう

南区  
横浜弘明寺商店街協同組合  
販売促進委員会委員長

婦人洋品のほまれや  
大貫文吾 (43歳)

横浜弘明寺商店街(協)が愛され続けるのは、キャッチコピーそのままに「人情・下町・門前町」を地で行く商人が多く、その温かさ、心意気が来街者に伝わるから。「僕、リーダーなんていう柄じゃないですよ。」と謙遜される大貫さんは生粋の弘明寺っ子、販促委員長として商店街イベントをしなやかに統括しています。



1親切がモットーの大貫さん。優しい人柄があふれています 2「婦人洋品のほまれや」。お客さんはスタッフとのおしゃべりも楽しみのひとつ 3・4 地域の方から集めた鯉のぼりが大岡川にかかりました



事務局、委員会による役割分担が機能している同商店街だからこそ、楽しく前向きな商店街活動を可能にしています。大貫さんは、商店街を思うたくさんの仲間たちと新たな弘明寺の魅力創造してくれるでしょう。

大岡川の桜の季節は遠方からも大勢の人出があり、商店街全体がおおむね倍の売り上げに。魅力ある何かがあれば、お客さんがわざわざ来てくれることは実証済み。「大きなイベントが確立できたら観光地として勝負できる、と確信しています。年配の方に人気の巣鴨地蔵通り商店街やインバウンドが訪れる浅草の商店街のように、弘明寺をもっと有名にしたいです。」と大貫さんの挑戦は続きます。

## 弘明寺を全国区の商店街に!

シニア女性の普段着を扱う自店では、近くにダンス教室があることに着目し、15年前からダンス衣装も取り揃え、店の〆売り〆にしています。「最近のシニアは若い世代と変わらない洋服を着こなす方もたくさん。うちも時代に合わせた商品構成を研究していかなければいけませんね。」。お客さんの要望があればたとえ一品でも問屋で探してくる、適正価格で販売する、心の込もった接客をする、何事にもお客さんに誠実であることは、しっかりと両親から受け継がれています。

## 3代目としての思い

型店に行ってしまうせいか、週末の通行量が顕著に減っています。子どもたちに喜ばれるイベントでファミリ層を取り込んでいきたいと思っています。

がんばれ!

# 横浜F・マリノス

第17回の対談は、**和田昌士選手と**  
**西区商店街組合連合会の大塚眞司会長です。**



大塚眞司 × 和田昌士

**和田** はじめまして、和田です。今日はよろしくお願ひします。  
**大塚** こんにちは、こちらこそよろしくお願ひします。和田選手は平沼高校卒業なんですかね。実はうちの息子二人も平沼高校出身なんです。先日酒販組合の関係で「未成年者による飲酒の危険！」について講演してきました。優秀な生徒さんたちなので、この話は必要ないなあ…と思いましたが(笑)。  
**和田** 自由だけど自主性と責任を持って行動する校風があり、当時僕もサッカーの合間の限られた時間で集中して勉強を頑張っていました。  
**大塚** 限られた時間で結果を出す、かっこいいね。だから文武両道でプロサッカー選手になれたんだね。そうだ、高校周辺での思い出は何かありますか？



和田昌士

1997生まれ。神奈川県出身。二俣川SC、横浜F・マリノスジュニアユース、横浜F・マリノスユースを経て2016年、横浜F・マリノス加入。2017年は1年間レノファ山口に期限付き移籍。背番号29番。

**和田** 横浜駅に近く、便利で買い物なんでも揃う立地でしたが、僕は学校が終わるとすぐにサッカーの練習に向かう毎日でした。プロになってから平沼の商店街にある蕎麦屋さんを教えてもらい、ほんとに美味しく感激しました。選手同士でもよくお邪魔しています。  
**大塚** 嬉しいなあ、横浜の商店街には若い人にも喜ばれるいい店がたくさんあるんですよ。そういえば、和田選手は1年間山口県のクラブに在籍していたんですね、どんな印象でしたか？  
**和田** ほのぼのした田舎でいいところでした。でも、初めての一人暮らしで戸惑うことも多くて…。僕は横浜の風景しか知らずに育ったんだなあ、つてつくづく実感しました(笑)。  
**大塚** 離れてみると「横浜への思いも格別かもしれないね。たしか地元は二俣川でしたよね、商店街の思い出とかあるかな？  
**和田** 駄菓子屋さんに行く事が大好きでした。自転車でお金を持って仲間同士で駄菓子屋さんに集合、お店のおばちゃんとはすつかり顔見知りでした(笑)。そこでおしゃべりをして、また友達が増えて…。ガチャガチャでスポンジボールや練り消しゴムを当てるのも楽しみのひとつでした。  
**大塚** 昔は各商店街にひとつは駄菓子屋があったんだけどね。やっぱり、子どもた

ちが行きたくなる商店街にするには駄菓子屋のような店がないといけないね。  
**和田** はい。いまの子どもたちはコンビニに行っていますよね。レジで買物をするだけでは寂しいっていうか…。駄菓子屋のような人と人がつながれるお店はなくならないでほしいと思っています。  
**大塚** ありがとう、和田選手のような若い人の思いが聞けてよかったです。では、ここで対談企画恒例の質問です。和田選手がプロサッカー選手になつていなかったとして、商店街でお店を出すなら何屋さんをやりたいですか？  
**和田** そうですね、地元密着の飲食店がいいですね。焼き鳥屋、ラーメン屋…とか。あつ、思いつきました！シェーカーをかつよく振つてカクテルを出し、常連さんの悩みを聞いて何気ないアドバイスをするバーテンダーなんてやってみたいです。ドラマの見過ぎかな(笑)。でも、二俣川にそんなバーがあつたらいいなと思っていました。  
**大塚** 和田選手らしいな、駄菓子屋さんに通じるね。和田選手のようなかっこいいバーテンダーがいたら繁盛間違いなし！でもオープンには30年後の目標に(笑)。次も恒例の質問ですが、毎年横浜の商店街で美味しいもののNo.1を投票で決めるイベント「ガチーシリーズ」を開催しているのですが、今年はチャーハンを投票対象にした「ガチチャーハン」を開催します。和田選手はチャーハン好きかな？  
**和田** いいですね、チャーハン！大好きです。豚キムチチャーハンが好きで、パラパラよりしつとり系が



大塚眞司

西区商店街組合連合会会長  
西区・戸部大通り商店会会長

好みです。カロリーが高いので頻繁には食べられません。つい先日、二俣川のラーメン屋さんでチャーハンを食べました。「ガチ丼！」エントリブックを見ながらこの銀賞受賞の中華料理店、美味しいに安くてボリュームがあつてオススメです。店長さんとも仲良しです！  
**大塚** 地元二俣川でも和田選手を応援していると思いますが、平沼高校に通っていたご縁で西区でも応援させてもらいますよ！前身の日産自動車時代の優勝パレードを見たことがあつて、大盛り上がりだったのを覚えてます。西区の商店街あげて、和田選手をトラックに乗せて是非優勝パレードをやりたいね！  
**和田** ありがとうございます、嬉しいです！平沼高校から初めてのプロサッカー選手ですし、地域のためにも母校のためにも結果を出さなければ、と思っています。  
**大塚** 21歳、まさにこれから。これからですよ！サッカー選手としての将来に向けての目標を教えてください。  
**和田** はい、まずは試合に出て着実に結果を残したいです。ゆくゆくは日本代表にしたいという目標もあります。今は地に足をつけて日々努力していくことが大事だと思っています。  
**大塚** 横浜F・マリノスの優勝を横浜の商店街みんなが待っています。和田選手が得点してくれたらさらに嬉しいですよ。横浜F・マリノス、そしてサッカー界を背負つて立つ選手になってください。  
**和田** ありがとうございます。プレーで横浜を盛り上げていきたいと思っています。  
**大塚** 頑張ってください。いただいたサイン入りのフラグ、早速、西区の商店街の目立つところに飾らせてもらいますね。今日はありがとう、ますます応援しますよ！  
**和田** 是非、和田推しでお願ひします(笑)。ありがとうございました。

明治安田生命J1リーグ  
ホームゲーム開催日程!

第15節 5/19(土) 14:00 vs V・ファーレン長崎  
第18節 7/28(土) 18:00 vs 清水エスパルス  
第19節 8/1(水) 19:30 vs サンフレッチェ広島

日産スタジアム  
ニッパツ三ツ沢球技場

よこはま市商連  
182号  
2018.5



# 商店街 NEWS



ご来場くださったお客さまをお出迎え

## 「第41回ハートフルコンサート」開催

2月24日(土)市商連では、横浜文化体育館にて「第41回ハートフルコンサート」を開催。今回の出演は松原のぶえさん。開演前、石川会長はじめ役員一同よりお客さまへ挨拶、日頃の商店街ご利用への感謝と今後ますますのご愛顧をお願いしました。大勢のお客さんにご来場いただき、楽しいひとときを過ごしていただきました。



石川会長、石垣副会長より花束贈呈

## NEWS 桜まつり 初開催!

3月31日(土)磯子区・汐見台中央商店会が「桜まつり」を開催。汐見台団地にある同商店街、目の前の噴水広場には見事な桜が咲いていました。お餅つきや、そのつきたてのお餅を



暖かな日曜の午後、噴水前広場は人であふれました

## 清掃活動実施中! NEWS

神奈川県・反町駅前通り商店街では、毎月第1・第3土曜日の朝8時から1時間、商店街を清掃しています。タバコの吸い殻やゴミのポイ捨てがなくなる環境を改善していきたい、と2年前に商店街が立ち上がりました。「清掃は予算がなくても身体を動かせばできる商店街活動、まちを綺麗にすることは、お客さま、商店主、地域、にとつ



拾うゴミがなくなりますように...

て三方よしです。先日、地域の方に『土曜日、お掃除してくれていましたね!』とお礼を言われました。見ていただいているんですね。いつか地域の方にも参加いただき、反町に清掃の輪が広がるよう頑張つて継続していきます!と総務担当理事、大丸薬局の大野さん。4月21日(土)で第43回目を迎えました。



きれいな環境づくりを商店会員から発信!

## NEWS 防災訓練 継続は力なり!



AED講習

4月15日(日)神奈川県・二ツ谷通り商栄会が毎年恒例の防災訓練を実施。10回目となる今年は記念セレモニーも合わせて開催しました。商店街には普段から防災用品を取り揃えており、7年前の東日本大震災の際には日頃の取り組みが生かされ、各店舗とも遅くまで営業を続けて帰宅難民を温かく迎えることができました。「区役所や消防署と向き合った立地を活かして、今後も三位一体となったまちづくりを次世代に継承していきます。」と10年間当事業を牽引してきた前石井会長と現藤井会長。防災訓練当日は大勢の会員が参加、消防署の指導のもと、AED講習、スタンドパイプ、消火器訓練を受けました。



スタンドパイプ訓練



消火器訓練

杵と臼を自宅から調達した猪股会長(写真右)

入れたお雑煮の販売など、商店会員による飲食ブースは大盛況。「時間のない中、仕込みや準備の段階から会員皆さんに力を貸していただけ。新規会員の学習塾さんにはクイズコーナーを盛り上げていただきました。子どもたちは餅つき好きですね(笑)、団地以外の親子連れも来てくれています。今後も子どもたちがワイワイ集まれる場をこうやって季節ごとに提供していきたいですね。」と猪股会長。



勝ち抜けクイズ、子どもたちは真剣勝負!